大阪錦繪新聞
第四十六号
河州名東縣十五等出仕吉本信治の方人の家ハ僱ひ女の
おつ弥とゆ者へ主人の留守の戸堅くとじて寢もやぬ夜ハ
押入へ一人りの賊ハ刷ぎすまを出刃と眼玉をひらゝ〜して
金子出セさとゆ驚くおつ弥ハ此家の僱人ゆへ金子の
有所ハ老ゞ弥ども善類ハ爰ハと箪笥ゑ出〜て渡セど
心でハ旦那の留守ハ一ト品でも紛失ゆさばゝ〜と
きもたけさ女ゆへ抜つと老ゞ刃をひく〜持とハ老ゞ浪の
白痴が衣類を背負出行を思ひ
ゑまてゝと切り付ゝ賊もすゝさゞ
西刃振り上老ゞ程ハ戦へど
女の腕のかい
のさゝ寸でゝ
ゆふヒゞまんと
ゝが近所の人が
聞つけて〜み付来る
目撃ゆ賊ハ品物捨置て逃
去りしゆへ一ト品も〜ゞきざりしハ
此おつ弥が心がけよき所とて
家憲さる賞典を〜ゞきこゝ手柄あり〜と
暗誌宝圖
笠木竹之助
八尾書